

鹿島臨海鉄道株式会社

[法人の概要]

平成17年7月1日現在

代表者名	代表取締役社長 金田好生(非常勤)	県所管部課	企画部企画課	
所在地	茨城県東茨城郡大洗町桜道301	電話番号	029-267-5200	
ホームページURL	http://www.rintetsu.co.jp/	E-mailアドレス	email@rintetsu.co.jp	
資本金	1,226,000 千円	設立年月日	昭和44年4月1日	
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	日本貨物鉄道株式会社	460,000 千円	37.5 %
	2	茨城県	350,000 千円	28.5 %
	3	住友金属工業株式会社	60,000 千円	4.9 %
	4	三菱化学株式会社	54,800 千円	4.5 %
	5	全国農業協同組合連合会	36,000 千円	2.9 %
	その他	18 団体	265,200 千円	21.6 %
設立目的	鹿島臨海工業地帯の生産品及び原料の輸送を主たる目的として、日本国有鉄道、茨城県、進出企業の共同出資により、昭和44年に設立した。その後、かねて建設中の国鉄鹿島線水戸駅、北鹿島駅間を国鉄(現JR東日本)に代わって当社が経営することになり、昭和60年3月14日から大洗鹿島線として、旅客営業を開始した。			

[事業の概要]

事業名	平成17年度売上高見込	内容
事業1 旅客運輸事業	785,644 千円	大洗鹿島線として、JR水戸駅ー鹿島サッカースタジアム駅間53.0km、及びJR鹿島神宮駅まで3.2kmの直通運転の乗り入れをあわせて56.2kmの旅客鉄道事業です。通勤・通学・お出かけなど地域の公共交通機関として、地域住民の生活向上、地域経済の発展に貢献しています。
事業2 貨物運輸事業	435,823 千円	鹿島臨港線として、鹿島サッカースタジアム駅と当社奥野谷浜(おくのやはま)間を結ぶ19.2kmの貨物鉄道事業です。コンテナ貨物の輸送を中心に鹿島臨海工業地帯の輸送動脈として地域の経済発展に寄与しております。
事業3 関連事業	175,006 千円	駅売店など大洗鹿島線の利用者の利便性の向上や、広告や施設賃貸など地域経済の発展に貢献しています。

[組織]

7月1日現在の人数	年度	平成15年		平成16年			平成17年							
		県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB							
役員	常勤取締役	5	0	2	6	1	1	6	1	1				
	非常勤取締役	12	0	0	12	0	0	12	0	0				
	常勤監査役	1	0	0	1	0	0	1	0	0				
	非常勤監査役	2	0	0	2	0	0	2	0	0				
	計	20	0	2	21	1	1	21	1	1				
職員	管理職	16	1	1	15	1	0	12	1	0				
	一般職	93	0	0	87	0	0	88	0	0				
	臨時職員	16	0	0	16	0	0	14	0	0				
	嘱託職員	13	0	0	14	0	0	12	0	0				
	計	138	1	1	132	1	0	126	1	0				
当期常勤職員の年齢構成	20代以下	20	30代	32	40代	13	50代以上	61	合計	126	平均年齢	43歳10月	平均勤続年数	15年 0月

[収支の状況]

鹿島臨海鉄道株式会社

(単位:千円)

区 分		平成14年度	平成15年度	平成16年度
収 支 の 状 況	売上高	1,572,585	1,491,986	1,408,493
	売上原価	1,212,399	1,174,275	1,099,979
	売上総利益	360,186	317,711	308,514
	販売費及び一般管理費	319,561	291,727	288,979
	うち管理費	175,067	152,530	139,463
	うち人件費	144,494	139,197	149,516
	営業利益	40,625	25,984	19,535
	営業外収益	24,452	19,978	31,020
	営業外費用	114	69	54
	経常利益	64,963	45,893	50,501
	特別利益	110,018	21,878	16,332
	特別損失	116,841	94,903	44,215
	税引前当期純利益	58,140	-27,132	22,618
	法人税, 住民税, 事業税	36,746	15,336	2,264
	当期純利益	21,394	-42,468	20,354
	前期繰越金	7,100	28,494	54,026
	当期未処分利益	28,494	-13,974	74,380
	利益処分・損失補填額	0	-68,000	0
次期繰越金	28,494	54,026	74,380	
財 産 の 状 況	資産	4,738,890	4,774,676	4,675,462
	流動資産	1,672,079	1,400,594	827,484
	固定資産	3,066,811	3,374,082	3,847,978
	繰延資産	0	0	0
	負債	1,262,231	1,354,299	1,218,507
	流動負債	389,082	472,236	332,807
	うち短期借入金	0	0	0
	固定負債	873,149	882,063	885,700
	うち長期借入金	0	0	0
	資本	3,476,659	3,420,377	3,456,955

[財的関与の状況]

(単位:千円)

区 分		平成14年度	平成15年度	平成16年度
財 的 関 与 状 況	補助金	0	0	0
	委託金	0	0	0
	貸付金			
	計	0	0	0
	財政的関与の割合(%)	0%	0%	0%
	損失補償・債務保証			

[平成16年度の補助金等の目的・内容等]

支 出 項 目	目 的 ・ 内 容 ・ 効 果
補助金	
委託金	
貸付金	

[評価総括]

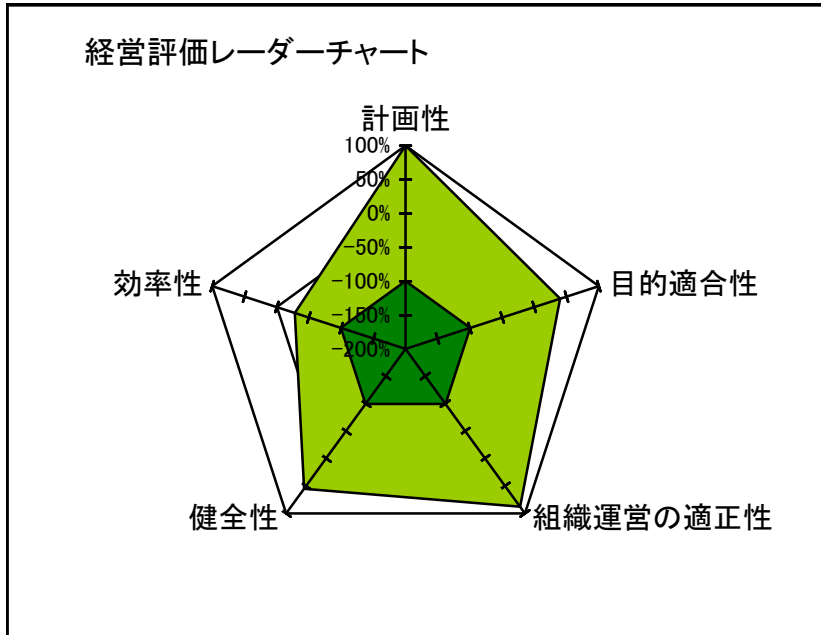
評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
計画性	4	8	8	100.0%
目的適合性	4	4	10	40.0%
組織運営の適正性	4	7	8	87.5%
健全性	11	22	40	55.0%
効率性	9	-9	32	-28.1%
合計	32	32	98	32.7%

企業会計用

鹿島臨海鉄道株式会社

警戒指標

--



《評価の視点》

計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか

各評価項目については、「出資法人等経営評価指標及び評価基準等」を参照

[法人の自己評価(経営概況, 経営上の課題, 対策等)]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
毎年度経営計画を策定し、全従業員に周知し各種営業施策等に計画的に取り組んでいる。また、「3カ年の経営目標」を策定し、毎年進捗状況の管理を行うことにより社会や経済の変化に対応した経営を計画的に推進していくこととしている。	鉄道会社として、安全で定時制のある大量輸送を確保してきた。少子化、景気の低迷など沿線の輸送需要の減少は否めないが、今後も地域住民や鹿島臨海工業地帯の荷主の足として、さらに地域の活性化のために線区外住民を沿線地域に誘客する公共交通機関として、地域の発展に貢献していくこととしている。	ワンマン化の拡大や多能職化により予備要員の削減を図り人件費の節減に努めており、平成17年度は管理職を3名削減した。	沿線内外のイベント情報等をチラシ、ホームページ等で広報し誘客等の増収対策を推進するとともに、利用実態に即した編成減車やワンマン拡大等大幅な経費削減策を実施し、経常損益は13年度から4年連続で黒字となった。少子化、モータリゼーション等営業収入の増加を期待するのが難しい状況から、人件費、物件費等の営業コストの削減に努め、さらに新たな事業による増収策を展開し、恒常的に営業利益を確保できる体質を築いていくこととする。	ワンマン列車拡大や編成減車など要員削減策など、各業務の効率的な執行に努めるとともに、他の交通機関との連携を深めて輸送の効率性を高める。また、貨物輸送の効率性を高めるため、鹿島臨海工業地帯の各企業等に対し、到着貨物の営業に努める。
今後の事業展開の方向	人口の減少、生産拠点の海外シフトなど、地域の大量輸送機関である地方鉄道を取り巻く環境は厳しくなると見込まれるが、通勤、通学の足の確保など公益事業である鉄道事業の使命を全うしながら、沿線市町村と一体となったPRイベントの開催や、フリーきっぷやレンタサイクルなど鉄道利用者の利便性を高める営業施策などの大洗鹿島線利用促進策を実施するほか、環境をキーワードとした貨物鉄道輸送営業施策の推進、さらには関連事業の増収対策など、地域の活性化に貢献する経営改善におよ一層努力する。			

[法人を担当する課の意見]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
年次事業計画等について実績との差異を分析し、その結果に基づいた具体的な改善策を講じている。県としては引き続き、計画の進捗管理を厳しく指導していくこととしたい。	利用者数が減少傾向にあるも年間250万人の旅客実績を有し、地域に欠かさない交通手段となっている。貨物輸送も環境負荷の小さい輸送手段としての役割が期待される。	人員構成、管理職数など適切である。また、社員との意思疎通も日頃から行われている。情報公開についても決算書類を公開するなど、透明性が確保されている。	15年度において子会社を精算し当期純利益では赤字を経営したものの、4期連続で経常黒字を達成し、借入金もなく、資金の運用も適切であり、健全経営といえる。	社員削減や職能の多能化による人件費削減、車両編成の合理化による経費削減等に努めており、さらなる経費削減について指導したい。
第三次行財政改革大綱に係る取組状況	推進事項		取組み状況	
	同一部内から取締役役に複数名就任している場合は、1名のみ縮減する。		取締役役については、出資株数に比例した構成となっており、県民の意向を会社経営に反映させるためにも、現在の2名を維持することとしたい。	
法人担当課の意見	<p>厳しい経営環境の中においても、子会社清算など厳しい時期を乗り越え、経費削減などの経営努力の結果、4期連続で経常黒字を計上したことは評価できる。しかし、利用者数の減少傾向は続いている状況にあることから、旅客部門においては、沿線市町村との連携による沿線PR(沿線ガイド、オーキングマップ作成)などにより鉄道利用の拡大にさらに努めるとともに、貨物部門及び関連事業部門においても、積極的な営業活動による需要の掘り起こしを行うなど、さらに収益性・健全性の向上に努める必要がある。なお、県派遣取締役については、出資比率などを踏まえ、慎重に検討していきたい。</p>			

[総合評価]

取組みを強化すべき視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">計画性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">目的適合性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">組織運営の適正性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">健全性</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">効率性</div> </div>				
総合的所見等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">概ね良好</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">改善の余地がある</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">緊急の改善措置が必要</div> </div> <p>地方鉄道を取り巻く経営環境が厳しい中、当社の経営は、旅客部門では輸送量・売上とも減少傾向にあり赤字基調となっているものの、貨物事業部門及び関連事業部門について経常黒字を計上し、3部門トータルで経常利益を確保しており評価できる。 しかし、今後の事業展開は利用者数減少傾向もあり楽観視できるものではないが、地域の主たる公共交通機関として住民の足となるよう、安全の確保に十分配慮し更なる増収対策や営業コストの削減等に取り組む必要がある。</p>				
総合的所見等に係る対応	<p>厳しい経営環境にあっても、経費節減や増収策などの経営努力の結果、経常利益を確保している。 しかし、旅客部門においては、他の地方鉄道同様、少子化等の影響により利用者数が減少傾向にあることから、沿線市町村との連携により利用拡大に取り組むとともに、貨物事業部門及び関連事業部門においても積極的な営業活動による需要の掘り起こしに取り組むなど、さらなる収益性・健全性の向上に努めるよう指導していく。</p>				

＜ 鹿島臨海鉄道株式会社 から県民のみなさまへ＞

<p>昨年は大洗鹿島線20周年を記念し、貨物線での臨時旅客列車運転やミニSL運行、駅からハイキングなどのイベントを開催し、お客様への感謝の意を表しました。今後も安全・安定輸送を基本としつつ利用者の立場に立った輸送サービスの確保に努め、地域に愛される公共交通機関としての役割を担ってまいります。また、貨物輸送につきましては、最も環境負荷の小さい鉄道貨物輸送をPRしながら、今後も引き続き荷主様に評価されるサービス向上に努め、輸送量の維持拡大を図り、鹿島臨海工業地帯の輸送動脈としての使命を果たしてまいります。</p> <p>大洗・鹿島地域にお出かけの際には、大洗鹿島線をぜひご利用願います。</p> <p style="text-align: right;">平成18年2月 代表取締役副社長 長島 徳一郎</p>
--